

岩中で学ぶ

父が保健課長として岩手に赴任。御影石の大きな門柱、正面に並列する校舎、右に講堂左に道場のある岩中に三年生の春転入学。下小路、中津川河畔、石垣に面し住む。隣家は猫塚君。

五年生の時父は金沢に転勤、盛岡に残る。教室の二階より日々眺めた岩手山は心に深く残っており、テレビで見ると身に締まる。医専グラウンド、高松の池、不来方城跡など盛岡の風景はいまだにはつきり目に浮かぶ。ラグビー部に入る。竹花、瀬川、川越、駒井、吉田、佐藤、大村、川守田、久保、井上、

辻 公一郎 (旧12回生)

小西の諸君とともに日々校庭で声を出しあい楯円球を追う。各人個性豊かな気持の通った良い友で往時を想うとき、その顔がはつきり思い出される。竹花、佐藤両君は故人となられた。小西、川守田君は転校。ポプラのそびえる中津川対岸に川守田、大村君の家がある。

川守田君とは昭和二八年後楽園の場外で都市対抗野球、熊谷組応援団長として団員を集め指示をしていた彼と会い久々の話をした。

熊谷組は私が勤める東京厚生年金病院の道路斜め前にあり、以来熊谷組の人は病院受診時私に連絡をし紹介した。彼には開業時の建築

その他いろいろ世話になった。現在熊谷組監査役をされており、元気で活躍中。仲良く交わった大村君は中学四年で渡満、戦後帰国、以後連絡を保ち、両君とは親しくしている。

ラグビーの試合は医専グラウンドで行われ、盛中、医専が主で盛岡鉄道、秋田鉄道とも戦った。秋田との試合でFBのタックルをジャンプして交わしトライをした竹花のプレーは味方も相手も驚くファインプレーだった。盛中との対抗戦は応援合戦を含め元氣一杯戦った。盛中に負けたことはなく岩中は強かった。

ラグビー部卒業記念写真の中には後の全日本選手が三名いる。医専とも試合をし、よい勝負であった。後年医専の主将を務め、後輩岩中との試合も楽しい思い出である。

校長は佐々木哲郎先生。温かいお人柄で生徒への訓話は明瞭で、言われたことを守ろうとの気持が自然と湧き精神を涵養して下さった。

山中先生は、戸嶋先生が召集された後、部長としてわれわれを指導して下さった。ブラックタイエローの部歌は先生がお作りになり、折々声高らかに唱った。山中先生は生徒を可愛がって下さり、皆兄貴のように親しみ、敬った。四高を受けるとお話しした時頑張るようにと言われ励まして下さった先生のお顔は未だに忘れられない。落ちて金沢の予備校に入り他の人と較べ学力の余りの低さに驚いた次第。岩中時代は刺戟も少なく、気楽に暮らしたのである。

校長ご退任後東京に移られた山中先生は東京石桜会を作られた。東京石桜会は先生を中心に在京同窓生の心の寄りどころとなり、三田理事長、遠藤校長、母校の先生方の温かいご支援をいただき毎年開かれ、校歌のもと親しさの溢れる会となっている。

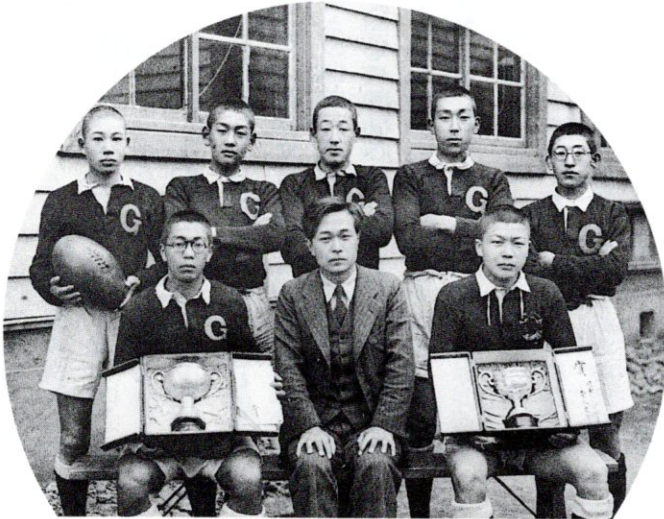
級友徐耀暄君は台湾の高校数学教師退職後毎年盛岡を訪れ、その都度連絡がある。

昭和一五年より一七年卒業時は軍国主義時代、少年戦車兵等に志願した元気潑潑な友は戦死。惜しい。友を悔み心より冥福を祈る。当時の配属将校の傲慢な言動は人の心を傷つけ、私に軍人に対する批判の心を植え付けた。

岩中在学の三年間は岩手の自然の中で育まれ、学校行事その他の岩手登山、橋場より奥羽山脈を越え、田沢湖まで友と歩いた山歩

き。昆虫採集、キャンプ等昆虫や植物、自然の姿を学んだ時代である。多くの友と交わり、友より学び、体力、持久力を養い、豊かな自然の中で心を鍛え、良き師の教えを受け、人生の基を培った三年間であった。岩中は多感な中学時代を過ごした心の故郷とも言える実り多い、忘れることのできない温かい母校である。母校創立七〇周年を慶祝し、益々のご発展を祈願し、同窓各位のご多幸を祈ります。

(日本臨床整形外科医会名譽会長、東京臨床整形外科医会会長、東京都各科医会協議会監事、東京労働保険医療協会理事)



山中順三部長を中心にしたラグビー部 (昭和16年)



ラグビー部員全員 (前列山中先生以外は5年生 昭和16年)



対医専戦を前に調整